

詰めると「人」が見えてくる!

●坪井日本医師会会長をホスト役にした「ビッグ対談」第2弾は、わが県で最も有名な官僚の一人、古川清前東宮太夫に登場願った。いうまでもなく氏は、外交官として各国を歩いた後で宮内庁に勤めたが、その顔と名前が広く県民に知れわたるようになったのはご

金透小、安積高
分かれたが...

前東宮太夫

古川 清

「医」と「外交」—突き

のころ”だった●昭和天皇のご逝去時はもち
ろん、皇太子殿下ご夫妻のお子さま誕生時に
は「懐妊報道」の苦り切った表情から、「長女・
愛子内親王のご誕生直後のにごやかな笑み・
何度もその顔がブラウン管から流れ、国民す
べてがその表情から「何か」を読み取った●

ビッグ
対談

母校は同じ
やがて道は

日本医師会長

坪井榮孝

「愛する人を失って」がん「専門を決意

古川 坪井会長の実家は材木屋さんですが、お医者さんを志したきっかけは何がありましたか？

坪井 よく聞かれるんですが、医者を志したきっかけというのは、私自身にははっきりしたものがありませんよ。

古川 だれが(医師の試験を)受ける、といったんですか？

坪井 一番強かったのは、祖父(栄作氏)ですね。

古川 ああ、市議会議員をなさっていたー。

坪井 祖父が一家の実権を持ってましたからね。早稲田の座布団帽子をかぶった学生が、代々木練兵場での学徒出陣を映したニュース映画がありました。それを見たからかも知れませんが、「なるべく、徴兵が先送りになった方がいい」と祖父母は思っていたのでしよう。もちろん、当時は口には出来ないセリフでしたが……。

そこで、理学部にいくか医学部にいくかということになりました。実

際は戦争も後半だったので、あまり関係なかったのですが、「医学部に行け！」ということはいわれて……。

材木屋の長男でしたので、どこかの商学部か経済学部を受けて、家業を継ぐべき立場だったんですけれども、医学部を受けたんです。いまもなつてよく「医師になった動機は？」と聞かれるんですが、私自身としてはないんです、はっきりした覚えが……。(笑)

古川 でも、坪井会長を先輩として眺めていて、常に臨床から離れないでおられることに感心します。これは、とても大きなことだと思います。

坪井 そういつて頂くとありがたいのですが、医学者としての研究だけをしているということが、あまり向いていない頭脳構造なんですね。

それともう一つは、医療というものは個人の人命を対象にするわけですね。商人の子供として生まれ、お客さまという対人的な教育をされていますから、医者になつてもやはり、

患者さんから考えるクセがついてい

「だつたよ」といつてやると、いかに彼らが高まいた理論を持っていても、押し黙つてしまふの。

古川 この前も電話で「これから郡山に帰る」とおっしゃっていました。が、日本医師会長という大変にご多

それは決して、ためにしているわけじゃないですけれども、それが我々の主張の中にないと、まさに宙に浮いた、根無し草のような話になつてしまふ。実際は、毎週、郡山と東京の往復はつらいですよ。

忙しい時間を割いて、必ず週末には郡山に帰られて患者とコンタクトして治療と病状の進展を診て、また東京に戻られるというのは素晴らしいことだと思います。

坪井 そうです。多少面はゆいところもあるんですけど……。

私のいまの仕事というのは、厚生労働省へのアタックみたいなところがありません。彼らが出してくる政策に対しての……。

古川 「がん」の方に関心を向けられたのは、いつごろからですか？

私は地方の情報を多少集めた上で、政策案を持つてくる時に、私が彼らより優位に立てるのは、患者を診ているということなんです。

坪井 医者になつてからでした。これは何となく理屈が通つてい

官僚たちは、本を読んだりデータを集めたりはしていても、患者は診ていない。患者を診ているというこ

京にいましたので、郡山で祖母が病に伏していることを思うと、何とも気がもめました。

とは、医療政策とか医療に関する物事を決めるといふ時、最大のポイントになる。「そんなことをいつたつて、オレがけさ診てきた患者はこう

「東京だつたら何とかなるんじゃないか」という思いがあつたんですよ。そんなことをいふと郡山の人に怒られるけれども、当時は医療を受

ける側からすると、東京と地方とは格差があるような気がしたんです。それをなくさなくてはいけないんじゃないか、ということがあったのは確かなんです。

医者になろうという動機より、が

優れた日本の医療制度を外から見ると

坪井 でも、私が医者になったことよりも、古川さんが外交官になったことの方がもっと興味があります。

(笑)祖父がよくいってましたよ。

「古川清左衛門さんの息子さん今度、外交官になった」と。外交官というのは、郡山にいる我々の目から見ると、かなり羨望(せんぼう)的(てき)で、エリート中のエリートなんです。

古川 そんなことはないですけど。ロンドンから始まってニューヨーク、モスクワ：いろんな国に勤務し、最後はアイルランドでした。

最初にロンドンに行った時には、「ゆりかご」から墓場まで」というスローガンの英国の福祉政策を体験しました。英国は、外国人に対してもナショナル・ヘルス・サービスというシステムの恩典を与えています。

んの医者になろうとした動機の方が少し、はつきりしているんです。一番かわいがつてくれた人ががんで亡くなったというのが、一つの大きな転機であったことは間違いないですね。

すごいシステムだと思いましたね。

日本の保険制度がまだ、手探りの状況だったから、非常にびっくりしました。

坪井 何年ごろの話でしょう？

古川 昭和三十二年にイギリスに行きました。ただ、歯医者さんは別でした。保険医の歯医者さんはいませんが、歯医者だけは腕の問題だということ、保険医ではない個人開業の人が多かった。やはり私も、歯を治す時はプライベートのお医者さんに行きました。

坪井 普通の日本人でも、向こうの医療制度で？

古川 救済されてましたね。税金も払っていないのに、本当に随分おらかなシステムだなあーと思いました。(笑)

坪井 そういう流れが出来て、そのリスクみたいなものがたまった時が、サッチャー首相の時だったんですかね。サッチャー首相の政策というのは、我々にとって非常に大きな影響がありました。サッチャーイズムというのが医療の中に入ってきて、変わった。

いまのイギリスの医療というのは決して、いい医療ではありません。社会保障そのものが変わったんです。「ゆりかごから墓場まで」という精神そのものが、どこかで寸断されました。

古川 また、モスクワ勤務のころはまだソ連邦時代で、これにはびっくりしました。勝手にお医者さんを見つけれないんです。外交官は、ある病院の、ある病棟にしか行けない。要するに、一般のロシア人とのコンタクトを好まないソ連の政策です。行ってみると、社会福祉が徹底していたということもあるんですけど、うめいてる患者のベッドが廊下まで溢(あふ)れていました。

我々外交官たちの専用の先生は、女の先生が多かった。風邪を引いて行ったんですが、問診しからない

磐梯朝日国立公園

湯めぐりの宿

野地温泉ホテル

福島市土湯温泉町字野地1

☎(0242)64-3031(代)



古川清前東宮太夫

です。「熱はありますか?」「何度ありますか?」「咳は出ますか?」「だるいですか?」と、それだけ聞いて処方するんです。(笑)全然、聴診器を当てない。これには驚きました。

(笑)
坪井 治つてくれればいいですけどね。(笑)

古川 それで処方せんを書いてもらって薬局にいくと、「ニエツト」というんです。要するに在庫がない、物不足なんです。変なシステムだなあと思いました。そのころは、中央委員会とか共産党幹部の人だけの

ための「中央委員会病院」というのがモスクワの郊外にありまして、ロシア人たちは「あそこに行けば何でも治る」と行ってました。(笑)普通の人は、もちろん行けない。共産党の中央委員会のメンバーとその家族たちだけ。そこには、世界中の最新の医療器械がごっそりと輸入されている、と聞いてました。

坪井 決まった医者にしかなかれないというのは、いまのイギリスの医療制度に似てますね。

古川 イギリスもそうでした。ホームドクターを一人決めなくては

けない。そのドクターが、いろんなところを紹介してくれるシステムです。そういうのと比べると、いまの日本ではどこの医者さんにも行けるわけですから。私の体験からすると、非常に優れたシステムだと思います。ただし、気を付けないと、同じ病気なのにA、B、Cとお医者さんを回り歩いて、同じ検査をして無駄遣いが出るのかなあと。

坪井 それは、お医者さんと患者さんのコミュニケーションの悪さなんです。よく説明しないと、説明に関して理解度が低いとか。それと、いわゆるセカンド・オピニオンといって、ほかのお医者さんの意見も聞いてみるという、そういう風習がないです。日本には、お医者さんが嫌がりますから。

皆保険制度がない外国の医療の裏と表

古川 アメリカにいた時、大病をして財産がすっからかんになったという方が、結構おられましたよ。保険制度はあるが、皆保険じゃありませんから。

坪井 アメリカは、民間の保険会社

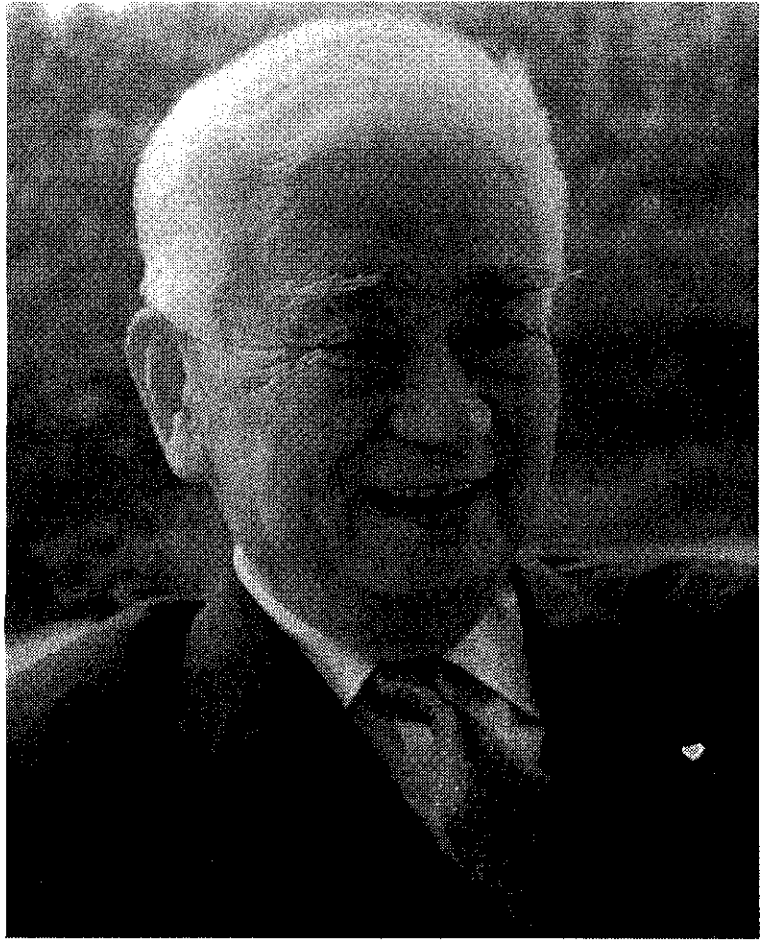
古川 そうそう。あんまり許さない。
坪井 それがあると、よく説明をし、医療そのものを理解して頂いて、そして「私はこう思うんだけど、あの先生にもちよつと聞いてみたら」となる。

古川 医者も万能じゃないんだから。
坪井 「聞いてみて納得いったら、またいらっしやい」という話をした方がいい。日本の医療で変えるべきところは、そういうところなんです。いま古川さんがおっしゃったように、いつだって、だれだって、どこの医療機関にだつてかかれる。しかも、世界的に見たら医療費が安いでしょう? そこが改革のポイントなんです。

古川 太つちやつていますからね。

古川 そうですね。私も民間の保険に入っていました。そうじゃないと不安です。

坪井 その点、日本はやっぱり恵まれています。アメリカには無保険者



坪井栄孝日本医師会長

が四千三百万人、国民の二割弱ぐらいいるんです。日本はそんなことない。ですから、ヒラリー・クリントンが「日本のような皆保険制度が欲しい」といって改革しようとしたわけです。

古川 そうすると、膨大な費用がかかりますね。

坪井 日本の場合は戦後、何もなかったところから、みんなが我慢し合いながら、みんな支え合って、社会保障の基本的なコンセンサスのある土壌の中でこの制度を作ったために出来ました。

アメリカ人にも「人を助けなければならぬ」という気持ちはあるんですけど、金持ちが高い保険料を支払ってぜいたくな医療を受けても、貧しい人たちの分まで我々が負担する必要はない、というような気持ちはあるのは確かかも知れません。

古川 アラビア半島の南の方にある、オマーンという国の大使をしたことがあるんです。非常に暑い、砂漠だらけの国ですけども結構、生活水準が高いんです。石油が出来ますから。カブースという王様がいて、

その王朝が三百年も続く、非常に長い歴史がある国です。

人柄もよくて、大国的な、非常にゆつたりした人柄のところがあるんです。しかし、油が出てきてからどういうことが起こったかというところ、食べ物がいっぱい入ってきた。もちろん豚は食べませんが、羊の肉は食べます。ニュージールランドあたりから羊の船が来るんです。羊の肉は、冷凍はダメなんです。イスラムですから。コーランにのっとって、特別のお祈りをしてから羊を殺して血を抜いて……という、そういうしきたりを通った肉じゃないと食べられないんです。そうすると結局、生きたままの羊を持ってきた方が楽なんです。

いつだったか港に行きましたら、船の上にいっぱい上部構造があるんですが、小さな穴がいっぱい空いている。非常に奇妙な船なものですから、何だろうと思ったら、ニュージールランドから羊を運んでくる船でした。(笑)ですから、マーケットに行けば生野菜から牛肉、羊肉……いろんなものがある。産油国で油が売れましたから、食料がたくさん入ってきます。

た。しかしそうしたら、心臓病、糖尿病——そういう生活習慣病みたいなのがいっぱい増えた。

町の中にも病院はありますが、金持たちはそこには行かない。どこに行くかというところ、アメリカに飛んで行くんです。アメリカのヒューストンに大変に大きなメデイカルセンターがあるそうなんです。ファクスを入れて「お金はいい値で払いますよ」といってやると、到着の時に医療スタッフが待っていて、手術もすぐ出来て病気はだいたい治るといような話がある——と聞きました。でもこれは、保険というよりはお金で治る、ということですね。生活がよくなると、病気も増えてくるんですね。

坪井 そうなんです。日本もそうです。食べ過ぎ、飲み過ぎで体を壊す……。神様が考えるバランスなんですよ。か、生活習慣病なんていうのは、終戦当時から見るとうらやましい話ですよ。(笑)

古川 食べるものが、何もなかったんですからねえ。

坪井 食べられるものにはこんなに種類があったのか、と思いました

ね。芋のツルを食べたりしてたんで、すから、終戦当時は。(笑)ところで、北欧はどうでした？

古川 ソ連にいた時、外交行囊（うたづ）とあって、外交文書はモスクワに持ってこなかったんですよ。いまでもそうかも知れませんが、スウェーデンに取りに行くんです。そうしないと、いたずらされても困りますから。

そこで、スウェーデンで時どき、お医者さんにチェックしてもらった

「最先端」医療はすごいが「すそ野」がまだ

古川 ただ、こういう話も聞きました。スウェーデンで、ある日本人のお子さんが二階から落ちて頭にひどいケガをしたので、あちこち電話したらお医者さんが「きょうはホリデーだ」という。

福祉制度の極限まで進んでいるから、お医者さんはある程度以上の患者さんを取っても、収入にならないんです。そこまですべて休んでしまっている。土、日曜日は完全に休みです。普通の日も「きょうはここでお終しまい」という、まるで京都のお菓子

り、健康診断をやってももらいません。お産も、スウェーデンでやっていらした方がいましたね。スウェーデンの医療の方が確実でした。

当時のソ連には、薬がないというような事情がありました。ある大使館員が、ソ連で、腎臓結石の疑いがあるのでレントゲンを撮ろうとしたが造影剤がない。そこでそれを、スウェーデンから取り寄せました。だから、医者に行くのに患者が薬を持っていかねばならない。(笑)

屋さんみたい。(笑)

それで、ケガをした親がちょうど夏休みだったんで、海岸まで車で走って「この中にお医者さんはいませんか。子供が二階から落ちて血を流している」と叫んだら、スウェーデンにホリデーで来ていた、ドイツ人の外科のお医者さんがいたんです。その人に「助けてください」といったら、その子供とお医者さんのために、ある病院が施設を手術のために開けてくれたそうです。その先生が執刀して一命を取り留めた

という話を聞きました。

福祉制度が、あまり徹底してしまっても困る。お医者さんが、患者を十人取っても百人取っても収入が同じでは、今度はお医者さんが逃げていく。いろいろ難しいですね。

坪井 フィンランドもそうですが、スウェーデンの医師会も日本と仲がいいんです。「桜が咲いた時の日本が見たい」とフィンランドの医師会がいつてきましたから、去年でしたか、日本にお呼びしようと思ったら「いま、ストライキ中だからダメだ」というんです。

日本でも、武見太郎先生が日本医師会長の時にストライキをやったことがありました。この時は大騒ぎでしたけれど、あの国のお医者さんたちは年中行事みたい簡単にいうんです。どうなっているのか？ と話を聞いたら、彼らは国家公務員、サラリーマンなんです。だから、病院がストライキをし、賃金闘争の中で医療費が上がる。

日本の場合ですと、医療費は医療費として論議をされて、上がるとか下がるとかという話になるので分かりやすいのですが、彼らは、一般の

労働者と同じような賃金レベルの中で、自分のドクターフィーのようなものが決まるので、非常に大切なことなんだそうです。そこで、「組合に顔を出さなくてはいけないので、日本に行けない」ということになりました。

古川 ところで日本の医学レベルは、世界的に見てどのへんですか？ 坪井 日本は本質的な医学のレベル、先端的なところは非常に高いんです。ただ、そのすそ野を広げるところが弱いんです。日本のお医者さんが書いた論文の信頼度は、先進七カ国の中では一番低いんです。アメリカが一番高い。もちろん英語の論文ですから、語学的な問題もあるのかも知れませんが。論文の数は日本も多いんですがね。

それから、アメリカの商務省が調べた医療の技術力の評価なども、EJよりも低いですね。そういう点からいくと、日本では医療技術そのものが局的には高いけれども、それをトランスレートしてすそ野を広げるところは弱いんです。これは変えなくてははいけません。

だけど、先ほどから話している保



陰システムなどは世界のどこに対しても自慢出来ません。

古川 保健証ひとつあれば、国中どこ(の医者)に行つたつていいんですからね。

坪井 日本の医療保険制度は、国際的なレベルとしてもかなり高い。外国人から見れば、うらやましい制度ですよ。

しかし、日本の医療制度の中にも

変えなくてはいけないところがあります。医療のことだからオレに任せとておけ、というようなバターナリズムのな、江戸期以降の医療の提供の仕方ではなく、お互いに話し合つて患者さんが病院を選ぶ、医療を選ぶ形に持つていかななくてはいいけません。そこを変われば、日本の医療はもっと素晴らしい。

古川 福島県は野口英世という、生

きていけばノーベル賞間違いなしという人までいらつしたわけですから、福島県の医療全体の水準も高めて頂きたいですね。

坪井 わが県出身者で、ノーベル賞候補になる資格があつた人というのが

実は、もう一人いるんですよ。吉田富二先生。浅川町の方で、日本の癌研究の土台をつくり「吉田肉腫細胞」をつくつた先生です。

古川 長崎医大にいた?

坪井 長崎にもいました。東大の病理学教室に

いて佐々木研究所、いまの杏雲堂病院にもいました。

古川 息子さんと私、二高で一緒でしたよ。クラスは違いましたけど。その後、NHKのプロデューサーになった有名な吉田直哉さん。

安積疏水の父の故国オランダで墓参り

古川 安積高校は何期でしたっけ?

坪井 五十八期です。

古川 私は六十三期だから、五年違うんだ。

坪井 あの校舎で、一緒だったことはなかつたかも知れないですね。私は祖父から話を聞かされていたので、古川さんを存じ上げてはいたんですけれど。

古川 祖父の栄作さんには何回か、あいさつにお邪魔したことがあります。正月に帰つて来た時などに。私の親父と坪井会長のおじいさまが、市議会議員で同期生ですよ。昭和十年ごろ。

坪井 その時は私は東京にいて、郡山は留守にしていました。

古川 安積高校は福島県で一番古い高校です。郡山市発展の出発点と

坪井 有名なプロデューサーですね。彼のお父さんは、野口英世博士と並んでノーベル賞候補になつてもいい病理学者でした。

古川 福島県は有名な医学者を輩出しているんですね。

なつたのは安積原野の開拓だった。猪苗代湖の水を下に下ろして原野を開拓し、そこに窮乏した旧武士階級を入れて、という国家的なプロジェクトだったわけですよ。

坪井 いまだつて、あの工事は大変ですよ。明治政府は先見の明があつたね。

古川 それで、ファン・ドールンというオランダ人の(疏水開削の)技術者の銅像がちゃんと残っていますね。戦争中の金属の供出の時には、あの銅像を渡辺信人さんという疏水の理事長さんたちがどこかに埋めちゃつたんですよ。憲兵隊から追及されたらしいんだけど、だれも口を割らない。それを戦後になつて掘り出して、また元と同じ場所に飾つてあります。

そのファン・ドレーンさんのお墓を、郡山市が何回かミッシェンを送ってついに見つけて、十六橋(猪苗代湖から流れ出る川に架かる橋)を模した墓石まで作って届けたんです。現在では、立派なお墓になっています。

今年の一月末から二月にかけて、オランダの皇太子殿下のご成婚のお祝いのために皇太子殿下がオランダに行かれたんです。妃殿下はまだ、産後の日がたっていないのでお

皇室との長期の仕事に思い出たくさん

坪井 皇太子妃殿下のお話が出ましたけれども、東宮太夫というお役目はかなり長い期間でしたね。

古川 そうでしたね。最初は東宮侍従長ということで、平成七年の九月から。それが結局、翌年の一月までです。それから四カ月だけで、その後、八年一月に東宮太夫になりました。東宮太夫で六年と三カ月。まあ、あっという間でした。

坪井 皇室の行事などで皇太子殿下がお見えになると、いつも一緒にいたから、私も遠くから拝見してい

でなりませんでしたが、私がお供したんです。その時にちよつと時間がありましたので、ファン・ドレーンさんのお墓をお参りしてきました。結婚式はアムステルダムで行われ、宿もアムステルダムだったんです。それから「これは天のお恵みだ」とばかりに、お墓をお参りしてきました。郡山市がお墓を見つけた時には、無縁仏としてそのお骨をどこかに移して新しい墓地にする寸前だったんですね。

ました。

古川 いやあ、なるべくカメラには写りたくないと逃げていましたが、写されてしまいました。(笑)

坪井 ああいう時はしかし、古川さんの顔を見てもあいさつも出来ませんでした。(笑)

昭和天皇のご逝去、香淳皇后のご逝去など大変な時がありましたね。それよりも何よりも、私たち国民にとつては、愛子内親王のご誕生というのは本当によかった、ホツとした感じがしました。さぞかし、その場

におられた東宮太夫としては、本当にホツとされたでしょう。

古川 本当にそうです。十二月一日、大変に軽い、ご安産でした。大変にお元氣にお生まれになって。もう既に七カ月になられて、つい最近、新聞にもお座りされて、おもちやで遊ばれている写真が載りましたが、お生まれの時は本当にうれしかったですね。(笑)

坪井 あれは我々の想像が及ばないくらい、古川さんとしては感慨があつたと思うんですが。

古川 およそ二年前に、あるプレスが先走ってしまって、まだご懐妊がはつきりしない時期に新聞に記事を出してしまつたものだから、これが大変なプレッシャーになってしまつて、あのような不幸な、ご流産ということになってしまつて…。

私としては、その時が非常に緊張しました。もう少し静かにしておいでくださればよかつたのになあ、とその時は思っていました。

でも、その後はプレスの方も非常に理解を示してくれまして、昨年のご懐妊の発表の時には秩序整然とした発表が出来ました。抜け駆けもこ

吾妻自動車交通株式会社

福島市仲間町4-1 TEL024-522-7101

有限会社飯坂吾妻交通

福島市飯坂町平野字中ノ榎12-4 TEL024-542-2251

吾妻商事株式会社

福島市仲間町4-1 TEL024-523-4515

「さいませんでしたし」。その後のご妊娠中の報道についても、みんなそれぞれ抑制的に出来るだけプレッシャーをお与えしないように、ということ報道してくれましたので、新聞には非常に感謝しております。

坪井 この間の新聞に出ておられた愛子さまの顔を見て、古川さんのすべての苦勞が報われたな、ホッとされたんじゃないかな、と思いますし

郡山市歌

作詞 土井晩翠 / 作曲 橋本国彦

- 一、天の時あり地の利あり 人の和ありて事のなる
その現証をみよとこそ 金石透る誠より 栄日に増す郡山
- 二、安積の山と浅香沼 古典の中にかんばしき
あさか新たに育英と 殖産及び興業の 機関の名とし今かおる
- 三、太平洋と日本海 結ぶ疏水の力見よ 大湖と共に千載の
長きに亘る富の基 東北一は市の理想
- 四、市よその昔大帝の 竜賀再びとどまりし 光榮の場につつしみて
心にしるしああ奮へ 先人われに則ちつ

て、今度は内親王殿下を妃殿下が抱いておいでになられて…。その時は「まあ、随分大きくなられたなあ」

と意思しました。かわいいしねえ。風邪ひとつひかないで今日まで、すすくとお育ちのようでした。

「郡山市歌」が教える出処進退の難しさ

坪井 あれだけの重責を終わられてホッとされたのは当然ですが、古川さんの引き際は、私から見ると非常に恵まれておられたなあ、という感じがします。運がいいというか、さすがに人徳の致すところによるというか。

か、人間の引き際というのは…。運もありますね、これは。

古川 そうですね。やはり役人でしたから、いまになってみると大過なく終わることが出来て良かったなあ、と思っています。

坪井 昔の郡山市の市歌「天の時あり地の利あり 人の和ありて事のなる その現証をみよとこそ 金石透る誠より 栄日に増す郡山」というのが一番の歌詞なんです。私はあれがすごく好きでした。土井晩翠に作詞してもらって、福島県の学校の先生、橋本国彦先生が作曲した歌なんです。四番まであって、一番最後が明治天皇が郡山にお立ち寄りになったことがあるんで、それをうたっています。

古川 それはもう一回歌うように復活したらいいですね。

坪井 いい歌ですよ。でもいまのものいい。(笑)

古川 みなさんから辞めた後も「ご苦勞だった」といわれまして、ありがたいことだと思っています。

坪井 そうですね。普通ですと「ご苦勞さま」だけですが、古川さんの場合は本当に「おめでとうございませす」という言葉が自然に出てきますね。入り方も問題だが、出方という

て、今度は内親王殿下を妃殿下が抱いておいでになられて…。その時は「まあ、随分大きくなられたなあ」

と意思しました。かわいいしねえ。風邪ひとつひかないで今日まで、すすくとお育ちのようでした。

か、人間の引き際というのは…。運もありますね、これは。

古川 そうですね。やはり役人でしたから、いまになってみると大過なく終わることが出来て良かったなあ、と思っています。

坪井 昔の郡山市の市歌「天の時あり地の利あり 人の和ありて事のなる その現証をみよとこそ 金石透る誠より 栄日に増す郡山」というのが一番の歌詞なんです。私はあれがすごく好きでした。土井晩翠に作詞してもらって、福島県の学校の先生、橋本国彦先生が作曲した歌なんです。四番まであって、一番最後が明治天皇が郡山にお立ち寄りになったことがあるんで、それをうたっています。

古川 それはもう一回歌うように復活したらいいですね。

坪井 いい歌ですよ。でもいまのものいい。(笑)